

令和6年度 後期 学校評価について

集計結果はこちらから→



令和7年 3月
京都市立七条小学校
校長 新田淳

12月にすぐ一冊にて配信いたしました「学校アンケート」にご協力いただきありがとうございました。今回も、回答形式を「Forms」に限定し、回答をお願いしていましたが、前期の回答率とほぼ同じく約70%（対児童数）の方々から回答をいただきました。

今年度も質問項目に京都市の学校教育の重点や本校の学校経営方針に基づいた内容のものを取り入れ、また、児童と保護者のアンケート項目を連動させてそれぞれの視点で同じ内容を振り返ることができるようしました。

A…できている・よい・そう思う・わかる 等

B…大体できている・まあよい 等

C…あまりできていない・どちらかといえばそう思わない 等

D…できていない・思わない 等

全体的に見ると、児童の学校に対する考え方にはいくつかのポジティブな変化が見られました。特に、コミュニケーション能力や多様性の認識、情報モラルの認識などが向上しています。一方で、探究心やトラブル防止の意識においては若干の減少が見られます。

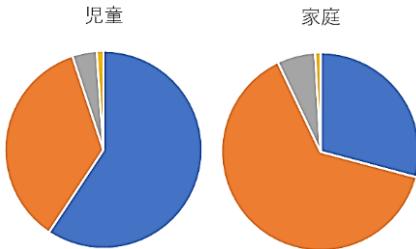
これらの結果を踏まえ、今後の教育活動においては、児童の探究心をさらに育む取り組みや、トラブル防止の意識を高めるための手立てが必要だと感じます。

主体的に活動できる場を目指して

今年度、本校の研究主題を、「主体的に学ぶ学習集団の育成」～探究的な学びを通して～として、さまざまな学習の時間の中で探究力の育成を図り、主体的に学ぶ姿に迫っていきました。

探究力を育むために、児童の好奇心を喚起し、質問する力や情報収集・分析のスキルを養うことが重要です。今回の学校アンケートでは、「授業がわかる」「学習が身についている」と感じている児童は約95%にのぼり、また、相手とのコミュニケーションを図りながら自分の思いを相手に伝えられていると感じている児童は約85%という結果になりました。今後もたくさんの体験を通じて、主体的に学ぶ学習集団を育てていきたいと感じています。

「わかる授業」「できる授業」の実感

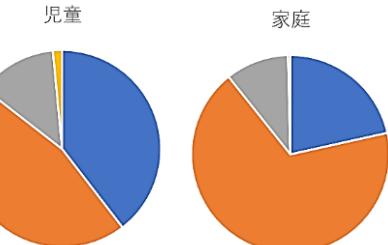


コミュニケーション力の活用



AB : 95.1%

AB : 85.6%



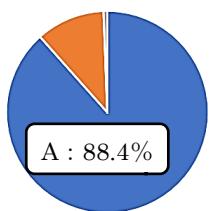
社会における人と人とのつながり

学校生活において、人ととのつながりは非常に重要です。友達や先生との交流を通じて、協力し合い、支え合うことで、安心感や信頼感が生まれます。これにより、子どもたちは自信を持って成長し、困難に立ち向かう力を身につけることができます。今回のアンケートでは、「協力することの大切さ」について、ほぼ100%の児童が肯定的な回答をしました。しかし、実際に普段からそのような行動ができているかという「実現度」の回答を見ると、やや数値が下がっています。「大切だと思っているけれど、行動に移すのは難しい」と感じている児童が多いのだと思います。さらに、「あいさつの大切さ」に関する質問項目でも、「大切だ」と感じている児童は98%いるのに対して、実際に「A 普段からできている」と答えた児童は約75%に留まっています。

本校は、登下校の見守りをはじめ、ゲストティーチャーや校区探検、施設見学など、多くの場面で地域との繋がりをもつことができています。自分たちの地域の良さを知りながら、いろいろな人と関わり合うことで、協力したり、あいさつする習慣を身につけたりしてほしいと思います。

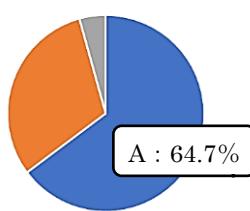
協力することの大切さ

児童



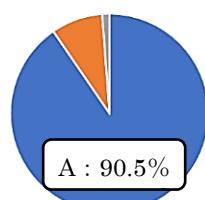
■ A ■ B ■ C ■ D

児童実現度

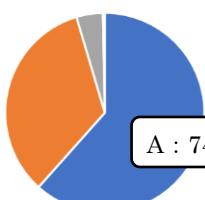


あいさつの大切さ

児童



児童実現度



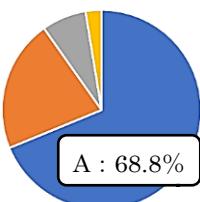
自分のことを大切にできる心

「自分には、とくいなことやよいところがありますか。」という設問では、前期同様、7割近い児童が A「ある」と回答していました。これは前回にも載せましたが、昨年度よりも15%近く上昇しています。

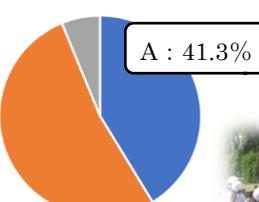
今年度、「めざす学校の姿」として、学び合う(学力)・高まり合う(集団)・思い合う(人権)・つながり合う(組織)の4つを掲げ、道徳教育の充実や、「認める指導」を念頭に置いた生徒指導、また、探究的な学びにおける児童の主体活動を通して、自分の自信につながる児童が増えたのだと思います。

得意なことやよいところがあると感じる

児童



家庭



■ A ■ B ■ C ■ D

